

8月17日から8月22日の六日間、私たちは、第5回アジア・ユースサミット(以下 AYS)に参加しました。今回の AYS は、「地域を良くするプロジェクトを創ろう！～経済、環境、文化がいきるまちづくりを目指して」がテーマです。日本はもちろん、アジア諸国の高校生が事前に考えてきた企画を発表します。その企画をもとに、共通の行動目標を持ち、実践してゆくことがこの AYS の大きな目的です。



一日目と二日目は、企画の発表でした。同じテーマで企画を考えても、各国、各地域それぞれの事象や問題があることがわかりました。貧困、子どもの教育、環境破壊、男女共生など、挙げているときりがありません。そのなかで私達が見出してゆくべきは、どのような意識を持てば、「持続可能な社会づくりの強固な土台」をつくっていけるのかということです。非現実的で大きすぎる目標ではなく、私達高校生が自らの力で実現可能な目標を見出すこと。皆さんの発表を聞いていて、この六日間の意義を噛み締めました。

二日目の夜に奈良野外活動センターへ移動し、三日目からはグループ・ディスカッションが始まりました。参加者が七つのグループに分かれ、テーマに沿った共通の行動目標を考えます。この話し合いを進めるにあたって大きな指針となったのが、「持続可能な開発目標」、通称「SDGs」です。これは、2015年9月の国連サミットで採択された、2030年までの17個の国際開発目標です。SDGsにおいて覚えておかなければならないことは、SDGsは「全ての国に適用される普遍的(ユニバーサル)な目標」であることです。自国のことだけではなく、各国が手を取り合って、一緒に進んでゆく姿勢を大切にディスカッションを進めてゆくべきだと感じました。



さて、SDGsには、飢餓、ジェンダー、平和、海洋資源など様々な目標がありますが、二日目までの発表を聞いていて、私のグループはあることに気がつきました。それは、「教育」「貧困」をテーマにしたものが多かったということです。それは、参加高校生が早急に改善すべきだと感じている事象は、その2つが起因しているものが多いということです。このように、各国色々な文化や背景があったとしても、全体を見つめてゆけば「世界全体で」動ける目標づくりに繋がることに気づくことが出来ました。

三日目の午後は、東吉野村の「OFFICE CAMP」のデザイナーの坂本さんからお話を聞かせて頂きました。東吉野村では過疎化が著しく進んでいたそうです。そんな東吉野村に約十年前に移住した坂本さんは、「どうしたら若い人が村に移住してくるだろう」と考え続け、その末に生まれたのが「OFFICE CAMP」です。都市部にある特別な設備が必要ないような仕事をしている若者をターゲットに、田舎で仕事する体験が出来る施設です。のびのびとした自然に囲まれて創作活動などに励む、坂本さんや他の移住者さんたちの生き生きとした表情が印象的でした。

四日目は、坂本さん達が住む奈良県の東吉野村を実際に訪れてのフィールドワークでした。東吉野村の村長さんのお話から、移住者支援が本当に充実していて、過疎化を改善し、「持続可能」な東吉野村にしてゆく努力が感じられました。また、東吉野村のいくつかのお店を訪問させて頂くと、皆さんはとても気さくにお話し

て下さり、とても親しみやすく優しい雰囲気でした。自分も移住してみたくなるくらい魅力的で、そしてその魅力を支える努力と優しさを感じさせる素敵な村でした。また、夜にはキャンプファイヤーがあり、音楽にのせて言葉があまり通じない外国の友達とも盛り上がる事が出来ました。

五日目は、坂本さんのお話や東吉野村でのフィールドワークを経て、グループ・ディスカッションの総括をしました。特定の企画に偏り過ぎず、かつ実現可能である企画を考えることは、たくさんのアイデアがある程大変なことでした。各グループの発表を聞いていると、どれもよく考えられていて感動しました。高校生がこれだけ集まって真剣に考えていけば、本当に持続可能な社会づくりが出来るということを実感させられました。この発表のあと、各グループのリーダーさん達で全体の総括をして、今回の AYS のアクションプランの採択となりました。

午後は、各学校で自国ならではの料理をつくって行うフェアウェルパーティがありました。コナツツや見たことのない外国の食材が並び、料理しているのを見ているのも新鮮で楽しかったです。日本料理と似たものもあつたり、外国人に日本料理について英語で説明したり、自国や外国の文化に触れることが出来る良い機会になりました。食事のあとは有志の皆さんによる歌やダンスの発表もあり、楽しい夜になりました。

最終日である六日目は、各国独自の踊りや歌を披露するカルチャー・パフォーマンスがありました。きらびやかな衣装、聞いたことのない音楽、不思議な踊りと、まるで世界を見せて貰っているような貴重な経験になりました。

この六日間、英語では自分の意見を上手く伝えられなかったり、難しい話に頭が痛くなったり、つらいことも多かったのですが、得たものは多かったと思います。外国人の皆さんの自由奔放さを見ているとこちらからも元気をもらえて、日本人の謙虚さ、おしとやかな性質を肌で感じたりもしました。日本人のそのような性質は誇るべき個性だと思います。しかしそれと共に、外国の方々のように困ったら素直に誰かを頼る姿勢を見習うことも大切だと感じました。また、今回の AYS 全体のテーマ「持続可能な社会を目指して」に即して、私達が持つべき意識とは何か。それを考えていくのが大切だと、一日目のレポートにて書かせて頂きましたが、六日間を通してその意識について分かってきました。短い期間ではありますが世界を実際に見つめる機会を頂き、外国文化だけでなく考え方の違いを感じたり、外国文化との違いを通して自国の文化について再認識したりすることがたくさんありました。このように、「世界全体で歩んでゆく」ためには、実際に世界の人々と交流してゆくことが欠かせないと思います。自分がその交流を通してどう思ったのか、外国との違いと共通点について考えてゆけば、今回のグループ・ディスカッションのようにひとつの目標にみんなで向かってゆけるのではないのでしょうか。持続可能な社会づくりにおいて私たち若者の可能性をひしひしと感じさせられました。このような貴重な機会を頂けたこと、とても嬉しく思います。ありがとうございました。



間を通してその意識について分かってきました。短い期間ではありますが世界を実際に見つめる機会を頂き、外国文化だけでなく考え方の違いを感じたり、外国文化との違いを通して自国の文化について再認識したりすることがたくさんありました。このように、「世界全体で歩んでゆく」ためには、実際に世界の人々と交流してゆくことが欠かせないと思います。自

分がその交流を通してどう思ったのか、外国との違いと共通点について考えてゆけば、今回のグループ・ディスカッションのようにひとつの目標にみんなで向かってゆけるのではないのでしょうか。持続可能な社会づくりにおいて私たち若者の可能性をひしひしと感じさせられました。このような貴重な機会を頂けたこと、とても嬉しく思います。ありがとうございました。

